川の子ども新聞

第8号

THE JOMO SHINBUN
上毛新聞社

利根川の水の精「ボトム」

さあ、夏だ。川のきせつ!

夏だ。夏だ。川と遊ぼう。
なかまで、みんないっしょに!
ゆかい!　楽しい!　きっと、
新しい友だちもできちゃうぞ!

P2-3 相俣ダム探検
ダムは、「遊べるところ」でもあるってどういうことかな? そのヒミツをみんなで探検!

P4 夏休み自由研究ガイド
P5 川のほとりへ、キャンプに行こう!
P6 川ってなあに?―
P7 とびっくす・読者からのおたより
P8 ボトムの楽校

カッパまつり(新治村)／ことしは7月25日(日)

川にまつわる話 7

板橋 春夫

◆大峰山のこうがい堀

利根郡新治村、水上町、月夜野町にまたがる大峰山(二三五九)の西側、中腹に昔、長者が住んでいました。長者には自慢の美しい三人娘がおり、娘たちを武将や商人の嫁にさせたいと願っていました。あるとき、来る日も来る日も照りが続き、長者は困っていました。そのとき、ふと名案が浮かんだのです。それは大沼(大峰沼)から水を引くことでした。

水路を完成させた者には、三人娘の一人を嫁にやると高札に書いて募集したところ、一人の若者が現れました。しかし、長者はすぐに若者が魔性の者だと気づき、娘の髪に押したこうがい(髪の毛をかきしゃくる道具)を使い一晩で掘れと、実現不可能な条件を出したのです。

しかし、若者は三人娘の一人からこうがいを受け取ると、さっそく大沼からもくもくと掘り進めました。もう少しで長者の家に着くとき、長者は熱湯を鶏にかけました。鶏は驚いてコケコッコーと鳴いたので、朝になってしまったのです。

すると、たちまち黒雲が現れ、若者は龍の姿となって消えてしまいました。実は、若者は大沼の主だったのです。それ以来、長者の家は傾き、屋敷跡とこうがいで掘ったと言われる堀跡の一部だけが残りました。

◆鰻借の逆さ桜と地蔵桜

湯宿温泉は、新治村須川の弘法滝が岩穴にこもって修行し大乗妙典という経を読んだところ、その功徳によって温泉が湧き出たところに人造の赤谷湖があります。現在は相俣ダムができ、ダムサイトには地元の人たちが、「謙信の逆さ桜」と呼ぶ、群馬県指定天然記念物の桜の古木があります。上杉謙信が鰻に使っていた桜の枝を地に挿し、これが芽吹けばこれからの戦に幸先がよいとしたのです。そのとおりに芽吹いて成長したのがこの桜と伝えます。この桜は花がたくさん付いたときは豊作といわれ、別名「豊年桜」とも呼ばれていました。

新治村東峰須川には、地蔵桜と呼ばれる桜の古木があります。桜のそばに祭られる地蔵様には屋根葺きを手伝った話が伝えられ、これは田植え地蔵の伝説の一連の伝承です。茅を一晩で葺いたところから「茅上げ地蔵」などとも呼ばれ、この地蔵のすぐ裏にある桜なので地蔵桜の名があります。

□参考文献:『郡九十九』(ほか著、上州の伝説(角川書店、一九七八年)、『日本児童文学者協会編』(群馬県の民話(偕成社、一九七九年)、『群馬の歴史と伝説民話』第二集(群馬歴史教学の会、一九七二年)

板橋春夫(いたばしはるお)
一九五四年生まれ。群馬歴史民俗研究会代表。近著に『ぐんまの民話』(宮田昇監修、一〇〇円文庫)、『ぐんまの研究』(宮田昇監修、三〇〇円文庫)などがある。

協力:国土交通省　利根川ダム統合管理事務所　ホームページアドレス　http://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/